

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長 増田稔久

関東大震災から100年 「防災等の学習施設を訪ねませんか？」

この9月1日は関東大震災から100年。当時10万人を超える方が亡くなりました。近年、東海地方で大型の地震は起きておらず「南海トラフ地震」の発生が懸念されています。このため各地には、防災等の学習施設が設けられていて、私はその一つである「名古屋市港防災センター」を年に1〜2回訪ねています。目的は防災知識（自然災害、火災、救急救命）の再確認と危険感受性の維持向上です。展示物はリニユアールが繰り返し返されており、行くたびに新たな学びがあります。

また最近は新たに「線状降水帯」による水害等が起きていま

す。車に閉じ込められる「車中死」を防ぐため、ガラス窓の割り方（※）は覚えておきたいです。以下に県下にある主な施設を紹介いたします。開館日や特別展等は各施設のホームページで確認してください。

(1) 名古屋市港防災センター
私が通う防災の学び舎です。伊勢湾台風の記録展示と地震・煙避難の体験室があります。食器棚の開き止めの措置（100円ショップで購入）など早速実施しました。また、消防局のボスターも説得力があります。そのスローガンの一つ「10年間、

ただの飾りで終われば本望」つて、何のことかお分かりですか？

答えは……、会場で！

なお、伊勢湾台風の関連記事は、本誌昨年（令和4年）9月号（33回）に記しました。

(2) 豊田市防災学習センター

「5つのトライと6つのスタディで防災力を身に付けよう！」と各種のトライ施設で、風速30メートルの暴風、震度7の地震、煙の充満した室内からの脱出、消火器、119番通報等を体験することができます。煙脱出の体験では、煙と暗闇の中を数部屋のドアを開け、通り抜けて避難。本当に真っ暗で、3回も壁やドアに頭と顔をぶつきました（痛みも学習です！）。また、割れた食器が散乱した床の展示では、スリッパを履いて

いても危険で、この状況を作らない対策こそ重要です。

(3) 大府市防災学習センター

東海豪雨（平成12年）の経験が生かされた施設です。その水害体験コーナーでは、①水圧体験車（冠水で止まった車から脱出できるか？）②水深60センチでのドアの重さを体験しますが、重すぎて開けられません。③冠水道路歩行体験（水の代わりにプラボールを敷き占めた道路を歩く）④底の段差や穴が見えませんが、蓋の外れたマンホールがあるかもしれません。

(4) 減災館（減災連携研究センター）

名古屋大学内に設けられた研究施設で、学習施設としても一般に公開されています。「防災」とは異なる「減災」を知つ

たのはこの施設名からで、重みを感じます。来年（令和6年）3月まで関東大震災の特別企画展が開催されています。

地震直後は、交通・通信遮断等により自助努力が求められます。これらの施設を活用し、その日に備えたいものです。

※車の窓は「脱出用ハンマー」ならば簡単に割れるので車内に備える。ただし、割る窓は横。前後は合わせガラスや熱線があつて割れない。また、手元にあるようなスマホ・カギ・カサ等では割れない。ヘッドレストの金具での割り方は窓下方の隙間に差し込む等の工夫がいるため難しい。（JAF等のホームページ参照）



地震体験室
（名古屋市港防災センター）



地震後に割れたガラス等が散乱した床面
（豊田市防災学習センター）



水圧体験車と冠水道路歩行体験
（大府市防災学習センター）